

令和5年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立城南高等学校

自己評価		評価(総合)
学校運営計画(4月)		
学校運営方針	進取の気性を有し、明朗にして端正で、広く社会への貢献を志す有為な人材の育成を目指す。	A
昨年度の成果と課題	年度重点目標 具体的目標	
<p>&lt;令和4年度の成果&gt;</p> <p>○新教育課程の検証や授業、課外・補習のあり方について改善し、観点別評価の実施と研究を深めた。</p> <p>○オンライン教育を推進し、ICT(ipad、Chromebook、プロジェクターなど)の一層の活用を行った。</p> <p>○課題研究(ESD探究)のテーマを、自らの進路選択に繋がるように設定することでより効果的な進路指導システムへとした。</p> <p>○感染症拡大防止対策に継続して取り組み、生徒の身体面だけでなく心理面についても丁寧なケアに努め、総合的な健康維持を図ることができた。</p> <p>&lt;令和5年度に取り組むべき課題&gt;</p> <p>○学校が生徒にとって安全安心な場となるようこまめに情報交換を行い、教職員全員が生徒一人一人を大切にできる態度を醸成する。</p> <p>○時代の変化に対応した授業を展開するために、教材や手法の工夫につながる研修を積極的に進める環境作りを図る。</p> <p>○学校行事を生徒の創意工夫の発表の場になるように、企画、指導を行う。</p> <p>○超過勤務縮減に向けて、各個人で努力項目を挙げて、その実現を図る。</p> <p>○広報活動を見直し・充実を図り、中学生および保護者への学校教育活動への理解につなげる。</p>	1 新学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別学習評価の実施とルーブリックの開発 ア 教科担当者間の綿密な連携により、単元ごとのルーブリックを作成し、その改善を図る。イ ルーブリックを生徒に提示することで、観点別評価を適切に実施し、授業の見直しを図るとともに、生徒の学力向上に繋げる。	
	2 働き方改革の趣旨を踏まえた時間外勤務の縮減と生徒と向き合う時間の確保 取捨選択も含め、各自の業務と各分掌や学年等における業務を見直し、効率化と負担の平準化を図る。その際、ICTを有効に活用する。	
	3 個別最適な学びの趣旨を踏まえた取組の導入とChromebookを活用した授業の開発 ア 一人一台端末を活用し、授業、HR活動を行うことにより、効率的に学力、情報活用能力、問題解決能力等を身に付けさせる。イ web上のコンテンツを利用した反転学習などICTを活用し、学習の効率化を図る。	
	4 進路学習と課題研究(ESD探究)の両立を図る「総合的な探究の時間」の開発 ア 生徒主体の学習活動や校内外の多彩な体験プログラムを通して、未来を切り拓く力を育む。イ 学校設定科目「ESD探究」、「理数DS」、「理数ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ」のカリキュラム改善を更に進める。	
	5 様々な事態に対応できるレジリエンス・危機予測能力・人間関係調整力の育成 ア 失敗を恐れず、粘り強くチャレンジする精神を育成し、困難をしなやかに乗り越え回復する力を備えさせる。イ 個として、また、周りと協働する中で主体的に考え、行動する経験を通して、目標にある力を育成する。	
	6 学校行事やHR活動、部活動等における伝統の継承と多様性に配慮した指導の徹底 ア 伝統を継承しつつ、コロナ禍の創意工夫を活かし、様々な課題の解決に取り組ませる。イ 様々な活動において、協働する体験を重ねる中で、互いの良さや違いを尊重し、協働する力を育てる。	
	7 SSH、即典型英語ディベートの推進 ・SSHで得たノウハウを教育活動全般で活用する。ディベートは教科を横断し推進する。	
	8 感染対策を含めた安全安心な学校環境の整備 ・クラス、分掌、学年等のチームで、一人一人の生徒を手厚く見守り、資質・能力の発達を支える。	
	9 同窓会・PTAとの連携による創立60周年記念事業の実施 ・同窓会、PTAと連携し、全職員で取り組み、様々な60周年記念事業を成功させる。	

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切である
	D: 不適切である

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教育推進部門	教務	授業改善	各授業におけるICT機器の活用方法の研究	Chromebookを活用した授業の研究と開発	A	Teamsを活用して、職員間の情報共有を図ることができた。eメッセージ等を活用して配付物の電子化を推進する。また、Chromebookを活用した授業改善に取り組むたい。
			電子教材導入に向けての準備	B		
		観点別評価	観点別評価の実施とルーブリックの開発	観点別学習状況評価の実践事例の共有	A	
			調査問題の作問の工夫と改善	A		
	業務内容の電子化	TeamsやGoogleClassroomの活用	各授業におけるGoogleClassroomの積極的運用	A		
			Teamsを活用した職員間の情報共有	A		
	図書・庶務	情報活用能力及び批判的思考の育成	読書の奨励と探究活動の促進	読書の日に向けた図書館利用の積極的奨励	B	ブックマイレージなどイベントを行うと一時的な貸し出し数は増えるが、継続する取り組みが来年度は必要である。また、ESD探究や授業での利用奨励も引き続き呼びかけを行っていきたい。
			ESD探究や授業での利用奨励	B		
		図書館利用の促進	図書委員会活動の活性化	文化祭等での催しの実施	A	
			図書館利用者増に向けた仕掛けづくり	A		
	情報教育推進	円滑な庶務処理	年度末・年度初めの諸業務の円滑化	適切な業務分担の実施	B	
			次年度への確実な引継ぎ	A		
生徒1人1台端末の活用		ChromebookやGoogleClassroomの活用	生徒・教員間における情報共有・伝達の円滑化	A		
			授業におけるChromebookを活用した協働活動の実施	B		
授業改善の推進	ICT機器の活用方法の研究	学年一斉実施の取組における教材の共有	A			
		教務部連携して観点別評価におけるICT機器の活用方法を研究する	A			
職員研修への協力	ICT活用指導力向上を図る研修への協力	研修部およびICT支援員との連携を図る	A			
		ICTの使用状況の把握と課題の集約	B			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・生徒たちの授業への積極的参加や研究は、昔とは大きく違っている。教える側の先生の教材研究の大きさが備えた。話し合いや研究は、受験につながるのか心配である。また、授業内容をすべて終えることができるか心配である。 ・超過勤務が問題になっていると聞く。教職員の負担減についてどのようにされているのか質問したい。 ・学校を欠席する生徒へのアプローチはどのようにしているのか伺いたい。 ・授業視察で、生徒たちの学ぶ姿に授業内容や進め方に工夫や配慮があると感じた。 ・情報共有がはっきりしてきている。
A	・図書館の利用が充実している。
A	・ICT機器を活用しての授業改善がすばらしい。

生徒 育成 部門	生徒 育成	安全指導の徹底	・命の大切さを理解させる ・地域の模範となる生徒の育成	時期を逃さず、適切なタイミングで生徒への周知を行う	A	A	登下校中の事故がなかなか減少しない状況にある。生徒の規範意識や安全意識を高めるには生徒間での意識の向上が必要と感じられる。そのような雰囲気醸成に効果的な方策を考えたい。	A	・月1回のあいさつ通りの清掃活動を高校生と一緒にできないか。自転車通学性のマナーは良くなっていない。車の送迎に対して保護者に注意喚起できないか。年度初めの交通安全指導をいつも通りお願いしたい。挨拶運動については高校生同士だけでなく、すべての人と挨拶を交わしてもらいたい。 ・自転車通学が大多数を占めているので、生徒たちの安全意識を高める努力は大変ですが、がんばってください。 ・自他の命を大切に、心も体も健康に過ごせるようご指導いただいているのを感じました。 ・生徒が主体的に活動ができています。			
		生徒の主体的活動の支援	・行事や部活動への積極的参加 ・生徒会役員の育成と各委員会の活性化	学校行事や部活動を通じて自己有用感と自己肯定感を育成する	A	A						
		支援の必要な生徒への指導体制づくり	・悩んでいる生徒への早期対応 ・面談を複数回実施	分掌会議において各学年の情報を共有し、支援委員会等との連携を図る	A	A						
				アンケートの確実な実施と情報共有の徹底	A	A						
	生徒 育成 部門	保健 管理	生徒の心身の健康維持	・感染症に対する正しい理解と行動力の育成 ・悩んでいる生徒への早期対応	感染症対策の継続実施、保健だよりの活用 注意深い観察、アンケート等を活用した面談の充実、保健室、SCとの連携	A			A	悩んでいる生徒の対応について日頃からの様相観察や声かけが何より大切であるが、予兆を捉えられずに不登校になっていく生徒に対する早期の対応の在り方を考えたい。	A	・特別支援教育が充実している。
			委員会活動の活性化	・日常の清掃活動の充実 ・保健委員、整美委員会の活動の充実発展	積極的に取り組み、協働する力の育成 生徒会・HRを有機的な連携を図る	B			A			
特別支援教育の充実			・個別の支援計画及び個別の指導計画の整備 ・職員の共通理解を図る	個別の支援計画及び個別の指導計画の整備 支援を要する生徒との組織的な面談の充実	A	A						
企画 推進 部門	進路 指導	進学指導	新学習指導要領実施に伴う授業・課外授業のあり方についての研究と学力の充実	新たな学びに基づく入試問題研究とそれを反映した授業改善の推進	B	A	他分掌と調整の上、1・2年次進路学習のHRの時間を確保が必要である。Chromebookを活用し、新課程共通テストに対応した授業改善を推進する。	A	・第一志望校へ進学した生徒が、学校に合わずに進路変更等している場合の追跡調査はできているか。 ・組織的なサポートがすばらしい。			
		進路行事	「自分の人生を何に使うか」という使命を自覚させるための体験的プログラムの充実	講座制課外授業の計画・実施 既存の進路行事を対面実施の形で再構築	A	A						
		進路実現	高い志に基づく進路目標の実現に向けて妥協しない姿勢を有する生徒の育成	1・2年次のHRにおける進路学習の充実 職員間で生徒情報を共有し、組織的にサポートする体制づくり	B	A						
				第一志望実現のための学校推薦型・総合型入試に向けた指導体制の構築	A	A						
	広 報	中学生に対する広報	本校の教育活動の様子や在校生の様子を具体的に発信することで本校の魅力を伝える	本校独自の教育活動の魅力を的確に広報する 出前授業や学校説明会を積極的に引き受け本校の魅力を発信する	A	A	先生方の協力を得ながら、中学校の出前授業や説明会の要望に応えていく。塾に対する説明会が2校だったので、来年度は可能な限り増やしていく。反省を踏まえ、体験入学をより充実させ、魅力ある城南高校を発信する。	A	・体験入学での「城南高校」の評価が高いと聞いている。好印象を与えた体験入学を実施するにあたり、その準備等で先生方の業務負担が大きくなっているのではないかと伺いたい。 ・体験入学ではたくさんの方に参加していただき良かったです。「城南」に行きたい!という話も聞きます。 ・広報活動が充実している。			
		中学校・保護者に対する広報	中学生の保護者や学校関係者に対して本校の教育活動を的確に発信する	中学生進路相談事業や一日体験学習、PTA学校訪問などを通して本校の教育活動の魅力を効果的に伝える 興味を引き付ける学校案内を作成し、本校の教育活動を伝える	A	A						
		学習塾に対する広報・情報交換	本校が求める生徒像を具体的に発信し志願倍率の向上をはかる	学習塾主催の学校説明会への参加を積極的に行い、本校の魅力を積極的に発信する 学習塾からの情報を聞き取ることで、受験生の動向の変化を把握する	B	A						
					A	A						
	S S H	授業改善の拡大	・課題解決のためのドリカムマップの充実を図る ・協働的な活動の推進を図る	探究活動や協働活動に関する取組を把握し、共有する 教員間の連携を密にして、課題研究の指導に取り組む	A	A	ドリカムマップを活用し、探究活動に関する情報共有を活性化させたい。また、成果物の冊子化や発信、久留米工業高等専門学校との連携した活動を活発に行っていきたい。	A	・授業改善の取組が充実している。			
		成果発信の充実	・地域の中核校として探究の手法等を発信する	スキルアップ講座の実施 各教科における成果物の冊子化を図る	A	A						
		理数コース事業の開発及び充実	・大学等と連携した企画や中学生の探究の場の設定を行う	久留米工業高等専門学校と連携した企画の立案・実施 中学生理数セミナーの実施	B	A						
					A	A						
研 修	職員研修の充実	本校の教育課題に即した職員研修の充実	アンケートで把握した職員のニーズを踏まえた研修の企画と実施	A	A	授業実践発表を複数回実施できた。次年度も情報教育推進部と連携し、ICTの効果的な活用法を職員間でより共有していく。人権教育についての研修も引き続き充実を図る。	A	・主催者教育の研修も大切だと思います。 ・職員研修が充実している。				
	授業改善の推進	教員のICT活用指導力向上を図る研修の充実	各分掌との連携・協力の下で研修を企画し、職員の協働する力を高める 相互授業参観を促進し、ICTを効果的に活用した授業実践例を共有する	A	B							
	教育プログラムの充実	社会参画の力を育む教育プログラムの充実	情報教育推進部及びICT支援員との連携・協力 人権感覚を磨き、人権について正しく理解できる教育プログラムの充実 18歳成年を踏まえた主催者教育プログラムの充実	B	A							

学 年 部	第 1 学 年	授業の充実と学力の向上	充実した授業の実践、および学ぶ意欲の喚起	個別最適な学びを通じた主体的な学びを育む授業の実施	B	A	A	ESD探究等の教育活動を通して、社会の変化によって求められるようになってきた力を示すことが出来た。挨拶や時間を守るといった不変のものを大切にできるような指導が今後必要となる。	
				学習と部活動・学校行事の両立	A				
		基本的な生活習慣の確立	集団や社会に寄与する精神の育成	出席皆勤の奨励	A	B			
				挨拶の励行と礼節を重んじる心の育成	B				
		進路意識の育成	高い志を持った進路意識の喚起	ESD探究と進路学習を両立させたドリカム教育の充実	A	A			
				学力の向上を通じた幅広い進路選択の指導	A				
	第 2 学 年	自身の基盤となる学力の保障	学校を中心とした学習スタイルの確立	ICTを活用した、主体的な学びに繋がる授業の実践	A	A	A		今年度培ってきた互いに高め合い、励まし合う学年の雰囲気や、個々の進路目標を明確にし、その目標達成に向けて邁進できる環境づくりが今後の課題である。
				朝の速読リスニングの督励と、放課後や休日の学校内の学習環境の整備	B				
		中堅学年としての自覚と責任、行動力の醸成	人間関係調整能力の向上	仲間や先輩をけん引する学年のリーダーの育成	A	A			
				リーダーとフォロワーの役割を通じた自己の役割の自覚	A				
		主体的に行動する生徒の育成	志ある進路目標設定への支援	大学や入試制度に関する情報の発信	B	B			
				上位者対策や推薦および総合型選抜入試などに向けた指導の充実	B				
第 3 学 年	授業の充実と学力の向上	授業の充実と学習意欲の育成	主体的な学びを育む授業の実施と家庭学習の充実	B	A	A	部活動・学校行事を通じ生徒を学校のリーダーとして、そしてフォロワーとして育成し、効果を得ることができた。進路選択においても第1志望を貫く上で有用であり、新学年においても一貫性をもち継続し取り組むことが必要である。		
			学習と部活動、学校行事との両立	A					
	自己管理能力の向上	最高学年としての行動、自信と誇りの育成	自ら考え計画・実行する力の育成	A	A				
			部活動、学校行事におけるリーダーの育成	A					
	進路指導の充実	強い意志と高い志を持って進路意識の育成	広い視野をと高い志を持った進路希望の実現	A	A				
			学校推薦型選抜、総合型選抜入試受験者に対する組織的な指導	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・ICT機器を活用した授業改善については継続して取り組みたい。教材の共有についても超過勤務縮減の手立てとして各教科で推進させる。
- ・あいさつ通りの清掃活動には積極的に参加する。交通安全指導は適切な時期・時間帯に職員を配置して安全指導を行う。保護者に対する送迎時の安全確保については一斉メールや生徒を通じて呼びかける。
- ・挨拶運動の意識改革について生徒会と話し合う。
- ・中学生への広報活動については、今年度の反省を活かしより充実、魅力ある城南高校をアピールしていく。また、SSHに関連して小学校との連携で実験教室などの実施を行う。

評価項目以外のものに関する意見

- ・教職員の方の熱意を感じました。今後も充実した学校運営を宜しくお願いします。
- ・地域の方のお話を伺い「高校生」でもまだ子供だなあと感じるころがありました。今後の成長が楽しみです。
- ・今後、小学校とも連携していくことも視野に入れたい。

A  
・ESD教育の取組が興味深い。

A  
・リーダー育成の指導方法が充実している。

A  
・進路指導が充実している。